※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3037

令和５年度　学教養科

教科	学教養	科目	（学）作品制作	単位数	２単位	年次	１～４年次
使用教科書	なし						
副教材等	担当者作成プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

織りの基礎、技術を学ぶところから始め、最終的には自由な技法で自分らしい作品を作ります。まずは、織りについての知識をプリント等で深めます。作品は丁寧に、かつ、自分らしさを取り入れたものに仕上げましょう。

２　学習の到達目標

(1)様々な技法を身に付ける。（工芸分野、デザイン、写真を含む）
(2)自分好みの作品を制作することができる。
(3)作品を完成させる過程を通して新しい創造的な自分への気づきを体験し、想像力を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	「織り」についての知識を深め、作品制作へと繋げることができている。	自分好みの色、素材で、作品制作ができている。 色合いをイメージし、バランスの取れた作品を制作することができている。	素材にこだわり、より良い作品を作ろうとする意欲がある。幅広いファイバーワークを鑑賞し、学ぼうとする態度。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4月～9月	平面作品（ストール）	「織り」について学び、知識を深める。	a:織りについての知識を深めることができる。 c:織りについての知識を深め、作品制作に活用しようとしている。	プリント		レポート提出

※令和４年度以降入学生用

		作品をイメージし、準備物を用意する。	b:素材や色合い等、細部までイメージし、デッサンすることができる。 c: 準備物を自ら用意し、作品制作に対する意欲が見える。		レポート提出	プリント
		糸を染色し、機を仕上げる。 制織	a:正しい手順で織り機を使うことができる。 b:仕上がりをイメージし、染色することができる。	実技	実技	
	作品制作	作品制作 発表	b:個性豊かな作品に仕上がる。 c:最後まで丁寧かつ慎重に作品制作ができる。		作品提出	作品提出
10月～2月	立体作品	作品の制作、発表 (身近にある立体)	b:完成をイメージし、正確に準備物を揃え、技能表現へと繋げることができる。 c:テーマを見つけることができる。		作品制作	発表
	知識の幅を広げる	インターネットを通じて、世界の作品を鑑賞する	a:世界の作品を鑑賞し、知識の幅を広げることができる。 c:世界のコンペティションにおける幅広いファイバーワークを鑑賞し、創作の幅を広げることができる	プリント		レポート提出
		授業の振り返り	b:次回、自分が作ってみたい作品の素材や色合い、準備物を考えることができる。 c:作品制作を振り返り、課題や反省を見つけることができる。		プリント	プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度